

子どもたちにとって、  
大切なことを  
木造校舎が教えてくれる。





## 豊かな自然や 地域の想いと一体になった 宮城県初の木造校舎。

### 宮野森小学校

宮城県東松島市。ここ宮野森小学校は、東日本大震災の被害を受けた東松島市立野蒜小学校と宮戸小学校が統合して生まれました。校舎には、東北材を中心にした約5,000本の無垢材を使用。土台はヒノキ、柱・梁などはスギと適材適所で木材を使い分けながら、木の香りと美しさに満ちた学び舎を叶えました。校舎・屋内運動場共に木造の小学校は宮城県初となります。学校をつくる際に考えられたコンセプトは、森の学校です。隣接する里山、そして海、川、畑や田んぼといった豊かな自然、さらに地域住民の想い、それらを一つの“森”として捉え、子どもたちの成長に活かしています。そして、郷土愛あふれる子どもたちを育てることをめざしています。



写真上：音楽室は森に面していて四季折々の風景が見える。  
写真下：屋根が付いている教室は、木の家のような空間に。

※取材 2018年2月



生徒たちがつくった“妖精”



**この校舎ができてから  
生徒たちの笑顔が  
増えたような気がしています。**

校長 相澤日出夫 様

木のぬくもりは、人のぬくもりまで感じさせてくれます。木造校舎は、大きな木の家のような感覚になるため、生徒たちの一体感も増しているように思います。挨拶の声が大きくなり、笑顔が増えたようにも思います。それは木造校舎だから、という理由だけではないでしょう。教師たちの地道な指導もあります。しかし、生徒たちにとって環境はとても重要です。木に囲まれた環境の影響が少なからずあるのではないかと、そう考えています。木に包まれる。そんな感覚がこの校舎にはあります。来校いただいた方からは「木のいい香りがしますね」と言われます。また、この校舎は無垢材を多く使っているため、生徒たちは学校生活の中で無意識に木に触れることとなります。視覚、嗅覚、触感…木が五感を刺激し続ける。生徒たちはその価値を今はわからないかもしれませんが、大人になった時に「あの学校でよかった」と思うのではないのでしょうか。震災の被害を受けたこの地域の方々にとって、未来を育む小学校が建ったことは大きな意味を持っています。生徒たちにどんなふうに成長してほしいか、どんな未来をこの地で育てようかと、大人たちが本気で考えてつくった校舎です。私たちは、そのことを伝え続けなければいけませんし、生徒たちがそこから大切なものを学びとってくれることを願っています。そうそう、校舎のあちらこちらに生徒たちがつくった作品が取り付けられています。この学校のみみなを見守っている妖精なんです。そんなかわいい遊び心も、木造校舎は受け止めてくれます。

**光のやわらかさや  
流れる風の心地よさが、  
従来の学校とは違います。**

保護者 伊藤礼子様

じつは、うちの子は「今までの学校が自分たちの学校だから、新しい学校なんていない」と言っていたんです。でも、この学校ができてみたら毎日「早く学校に行きたい」とガラッと変わったんです。「窓を開けると、気持ちいい風が流れてくるんだよ」と話してくれたり。この学校に来ると、大人の私でも思わず裸足になって走りまわりたい気持ちになります。今は、世の中にある建物のつくり方も、子どもの遊び方も、自然から離れていますよね。子どもの頃の体験は、大人になってから生きてくると思います。毎日通う学校で自然を感じることができるのは、とても幸せなことですし、情操教育になるのではないのでしょうか。東北の木が使われている点もいいですね。木がみんなを見守り、先生方や子どもたち、近隣の方たちの想いを受け止めながら、何十年と時を重ねていく。それも木造校舎の素晴らしさだと思います。



## 木が強い構造になり、美しいデザインになる。



屋内運動場(左写真)は、床面積 898.10㎡、天井高約 10m、25m 四方の木造大空間です。約 2,000 本の木材を使い、幾何学模様のように組まれた美しく堅牢な構造体により、森の中の広場のような巨大な空間を生み出しています。また、軒まで届く高さ約 8m の柱(中段写真)は、1 本の無垢材を使用。木が枝を広げているような形状は構造体として建物を支えること、建物に個性をつけること、そのふたつの役割を担っています。壁一面に丸太の輪切りを貼り付けた空間(下段写真)は、全面開口になっており、里山と一体になった“外の教室”として活用できます。

## スクラップ&ビルドではなく、「時間財」という視点でつくる。

木は、5 年経ったら 5 年の、10 年経ったら 10 年の味が出てきます。経年劣化ではなく、経年変化が楽しめる素材です。木の扱いを熟知した人が建てて、メンテナンスをして、時を重ねることで、木造建築は単なるモノを超えた、宝物、財産になっていきます。住友林業はそれを「時間財」と呼んでいます。小学校は、未来を育むところです。生徒一人ひとりが入学して卒業するまでの間、木はいっしょに時を重ねて、少しずつ味わいを増していきます。生徒たちが木に触れ、刻まれていく活動の跡さえ、思い出というかけがえのない財産になります。新しさだけを追い求めてスクラップ&ビルドを繰り返すのではなく、時間をかけてみんなの未来の財産をつくっていく。そのような視点を持つことも重要になるのではないのでしょうか。住友林業は木化を通じて、建築の新しい可能性と価値をご提案していきます。



### DATA

建築地：宮城県東松島市  
構造・階層：木造平屋  
(一部 2 階建：  
RC 造・鉄骨造)  
延床面積：3,999.07㎡  
設計・監理：盛総合設計  
シーラカンス K&H  
施工：住友林業

## 木化、世界の新しいつくり方

施設やビルなどの建築、都市づくりの建築材料に、木という選択肢が加わりました。無機質な社会や人工的な空間を、人といういのちにとって、より良いものに変える。地下資源から、森で出番を待っている木というクリーンな地上資源に変える。住友林業は、企業、個人、国や自治体などの施主様と想いを同じにし、木化という、世界の新しいつくり方を広げていきます。